

平成29年度 徳島大学大学院 総合科学教育部 II期 入学試験問題

博士前期課程

臨床心理学専攻

臨床心理学分野

受験科目名：臨床心理学

(一般選抜)

第1問 次の英文を読み、下の問1～3に答えよ。

注) 問題文は出典を参照のこと

出典：Breen, W.E., Kashdan, T.B., Lenser, M.L., & Fincham, F.D. (2010) Gratitude and forgiveness: Convergence and divergence on self-report and informant ratings. *Personality and Individual Differences*, 49, 932-937. より一部抜粋。

問1 下線部を和訳せよ。

問2 上の文章で述べられている「感謝」・「赦し」と心身の健康の関係について日本語で説明せよ。

問3 「Big Five」と「相関」とは何かについて、それぞれ説明した上で、上の文章で述べられている「Big Five」と「感謝」・「赦し」との相関について日本語で説明せよ。

第2問 心理学に関連する、次の1～20の語句に、最も関連が深い用語を、下の語群a～zのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- | | | | |
|-----------------------|--------------------------------|-------------------|-------------------|
| 1. Fechner, G. T. | 2. 意思決定 | 3. Festinger, L. | 4. Skinner, B. F. |
| 5. Beck, A. T. | 6. 学習曲線 | 7. Chomsky, N. A. | 8. Pavlov, I. P. |
| 9. コルサコフ症候群 | 10. 投影法 | 11. プライミング効果 | 12. Lorenz, K. Z. |
| 13. 多重比較 | 14. 選択行動 | 15. 共同注意 | 16. Ekman, P. |
| 17. 音の大きさ | 18. Piaget, J., & Inhelder, B. | | 19. ワーキングメモリー |
| 20. ウェルニッケ＝リヒトハイムのモデル | | | |

語群

- | | | | |
|---------------|---------------------|--------------|--------------|
| a. オペラント条件付け | b. 抑うつ認知理論 | c. ビタミンB1欠乏 | d. プラトーン |
| e. カクテルパーティ現象 | f. TAT | g. 動物行動学 | h. YG性格検査 |
| i. 名義尺度 | j. 精神物理学 | k. メル尺度 | l. 基本6感情 |
| m. 単語完成課題 | n. 三項関係 | o. 失語症 | p. 他視点取得 |
| q. ボンフェローニ法 | r. ソン尺度 | s. 言語獲得装置 | t. 古典的条件付け |
| u. 認知的不協和理論 | v. d' (d プライム) | w. セルフコントロール | x. ϕ 現象 |
| y. 視空間スケッチパッド | z. プロスペクト理論 | | |

第3問 次の文を読み、下の問1～2に答えよ。

Aさんは、卒業論文で新たな不安の質問紙を作成するために、予備調査を通して項目を収集し、それらの項目を用いて調査を実施した。そして、その調査のデータを用いて因子分析を行った。その結果が、右の表である。この結果を用いて、卒業論文発表会で発表したところ、次のような質問を受けた。

質問1 項目を因子に分ける際に誤った因子に分けられている項目があるのではないかな？

質問2 因子分析をただけでは、質問紙を作成したとは言えないのではないかな？信頼性と妥当性を検証する必要があるのではないかな？

この二つの質問についてAさんはどう答えてよいかわからず回答に窮してしまった。

不安質問紙の因子分析結果

質問項目	I	II	III	共通性
第一因子				
項目1	.767	.020	.198	.639
項目2	.732	.192	.017	.573
項目3	.732	.051	.213	.583
項目4	.729	.201	.070	.577
第二因子				
項目4	.196	.794	-.106	.681
項目5	.290	.710	.149	.612
項目6	.261	.501	.353	.443
項目7	.503	.402	.235	.443
第三因子				
項目7	.188	-.047	.724	.562
項目8	.067	.279	.698	.570
項目9	.146	-.132	.640	.449
項目10	.170	.394	.634	.592
因子負荷量の2乗和	2.54	1.97	2.195	
寄与率(%)	22.71	15.67	17.72	
累積寄与率(%)	22.71	38.38	56.09	

問1 あなたがAさんだったら、質問1について何と答えるかを述べよ。

問2 あなたがAさんだったら、質問2について何と答えるかを述べよ。その際に、「信頼性」と「妥当性」を検証する方法について具体的に述べよ。

第4問 心理学に関連する、次の1～20の語とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群a～zのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。なお、語群中の『』は著書名である。

- | | | | |
|--------------------------------|-------------------|---------------------|--------------------------|
| 1. Adler, A. | 2. Rosenthal, R. | 3. Bandura, A. | 4. Hollingworth, L. S. |
| 5. Erikson, E. H. | 6. Tellenbach, H. | 7. Rational therapy | 8. Kalff, D. |
| 9. Transactional Analysis (TA) | 10. Axline, V. M. | 11. Moniz, E. | 12. Yoshimoto, I. (吉本伊信) |
| 13. Bateson, G. | 14. Rogers, C. R. | 15. Moreno, J. L. | 16. Stern, W. |
| 17. Naruse, G. (成瀬悟策) | 18. Lewin, K. | 19. Vygotsky, L. S. | 20. Wolpe, J. |

語群

- | | | | |
|-----------------|--------------|-----------------|---------------|
| a. 自己効力感 | b. 教育分析 | c. 二重拘束理論 | d. 箱庭療法 |
| e. インクのしみ検査 | f. 個人心理学 | g. 発達の最近接領域 | h. P-F スタディ |
| i. 系統的脱感作 | j. 場の理論 | k. 遊戯療法 | l. 十分に機能する人間 |
| m. ソシオメトリックテスト | n. 内観法 | o. 『人間はどこまで動物か』 | p. 前頭葉ロボトミー手術 |
| q. 自我状態モデル(PAC) | r. 心理的離乳 | s. 『教室のピグマリオン』 | t. 『死ぬ瞬間』 |
| u. メランコリー親和型 | v. 自己説得 | w. 現実原則 | x. モラトリアム |
| y. 臨床動作法 | z. 遺伝と環境の輻輳説 | | |

第5問 次の事例を読み、下の問に答えよ。

臨床心理士養成指定大学院 1 年生の A さん（23 歳）は、抑うつに対してエビデンスのある認知行動療法を専門的に学びたいと思い、ワークショップなどに参加して、その査定・介入の技法を学んでいる。このほど、ボランティア大学生の協力を得て、回数を限定したカウンセリングを授業の一環として実施することになった。初回、学部 3 年の学生 B さん（21 歳）は、カウンセリング開始前の健康的な印象とは違って、この 1 週間ほど、学業に対する意欲が衰えていること、「自分はダメな人間だ」といった考えが頭に浮かぶことを語った。

問 A さんが B さんに対して取るべき対応について、心理臨床における倫理的観点を踏まえて述べよ。